



EA Connector for Redmine feature guide

by Sparx Systems Japan

Enterprise Architect 日本語版

Enterprise Architect-Redmine 連携アドイン 機能ガイド

(最終更新 2026 年 2 月 13 日)



目次

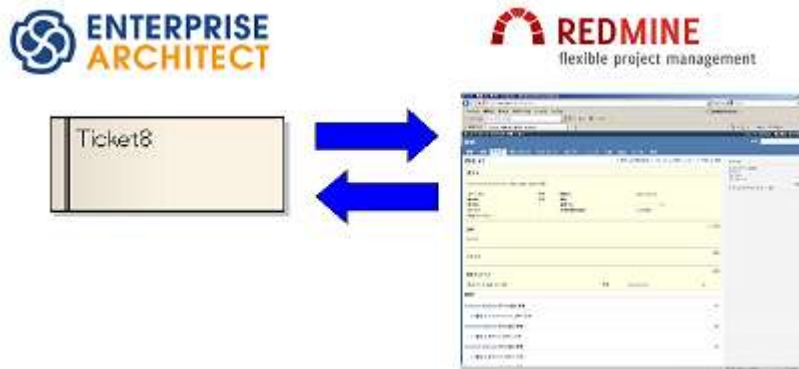
1. はじめに	3
2. Redmine とは.....	3
3. EA と Redmine を連携.....	4
3.1. EA の要素について Redmine で議論	5
3.2. EA の設計を基にした、開発項目などの情報の受け渡し(チケット駆動開発).....	7
3.3. 広範囲から寄せられた Redmine のチケットを、EA での設計へ活用.....	9
3.4. Redmine のチケット間の関連を、EA の図(ダイアグラム)で表現	10
4. Enterprise Architect-Redmine 連携アドインについて	11
4.1. Enterprise Architect-Redmine 連携機能.....	11
5. Enterprise Architect-Redmine 連携アドイン評価版利用設定	13
6. Enterprise Architect-Redmine 連携アドイン利用手順 (設定)	14
7. Enterprise Architect-Redmine 連携アドイン動作	16

1. はじめに

このドキュメントでは、Enterprise Architect-Redmine 連携アドインについてご紹介します。Enterprise Architect-Redmine 連携アドインを利用すると、Enterprise Architect(以下 EA)の要素と Redmine のチケットを対応付けし、効率よく作業を進めることができるようになります。

●Enterprise Architect-Redmine 連携アドイン

<https://www.sparxsystems.jp/products/other/IntegRedmine.htm>



2. Redmine とは

Redmine (レッドマイン) は、Web ベース・オープンソースの、プロジェクト管理ソフトウェアです。

Enterprise Architect-Redmine 連携アドインでは、BitNami Redmine(4.0.1-0 から 6.1.0-r1) を動作確認に利用しています。

Enterprise Architect-Redmine 連携アドイン評価用 Redmine サーバを以下に設置しています。

<https://redmine.sparxsystems.jp/redmine/>

3. EA と Redmine を連携

Redmine は Web ベースのツールであることから、多数の人がネットワークを介して、チケットという 1 つの話題に対して様々な議論を行うような場面や話題の一覧を参照するような場面で威力を発揮します。

一方 EA は議論の基や結果を構造化した図で表現するような場面で威力を発揮します。

このような特徴がそれぞれにありますので、Redmine のチケットと EA の要素を対応付け、それぞれの属性を相互に変換が行えるようにすると、以下のような情報の活用ができます。

- Redmine のチケットの情報を EA で活用
- EA の要素の情報を Redmine のチケットにし、議論や周知

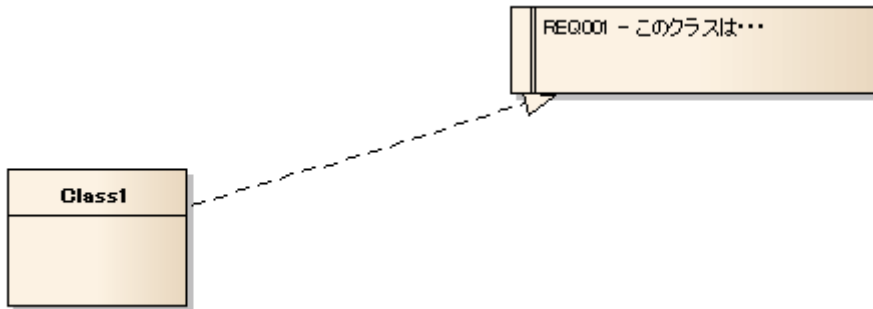
具体的には、以下のような場面での活用ができると考えております。

- EA の要素について Redmine で議論
- EA の設計を基にした、開発項目などの情報の受け渡し(チケット駆動開発)
- 広範囲から寄せられた Redmine のチケットを、EA での設計への活用
- Redmine のチケット間の関連を、EA の図(ダイアグラム)で表現
- その他

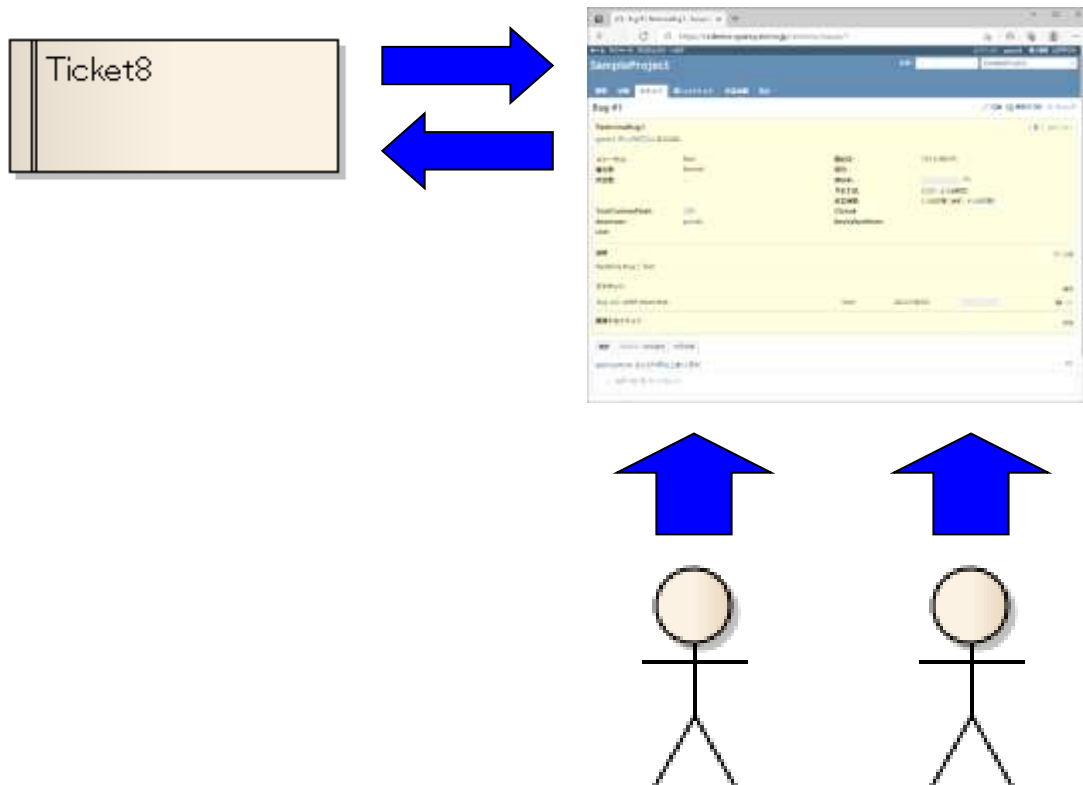
Enterprise Architect-Redmine 連携アドインを利用すると、このような場面で、EA ・ Redmine それぞれの情報を簡単にもう一方へ変換できます。

3.1. EAの要素についてRedmineで議論

EA のクラスなどの要素について議論する場合、EA 上のクラスに要求を関連付けて、その要求にコメントや議論を書くことがあります。



この場合、コメントを要求に書き込むには「該当のプロジェクトにアクセスできる環境でEAを立ち上げる」もしくは「プロジェクトのバージョン管理などを行っておき、持ち出したプロジェクトのデータをEAで利用・その後マージ」などを行う必要があります。



Enterprise Architect-Redmine 連携アドインを利用すると、要求を Redmine のチケットにすることで、Redmine 上でコメントを書き込むことが可能です。Redmine は Web ベースですので、ネットワーク環境さえあれば、参照し、コメントを書き込むことが可能です。

また、Redmine のチケットを見ただけで要素に関連した内容がわかるように、要素の子ダイアグラムを画像として、また要素の付属ドキュメントをファイルとして、Redmine のチケットに添付することが Enterprise Architect-Redmine 連携アドインで可能です。



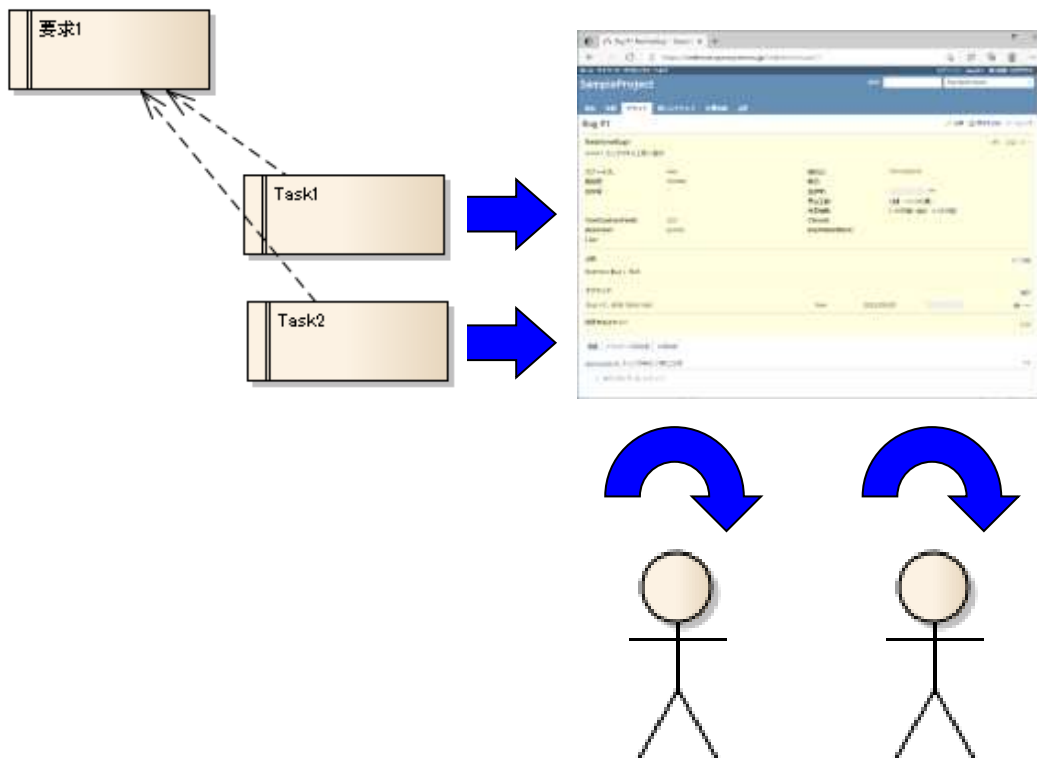
Redmine のチケットに書き込まれたコメントは、再び Enterprise Architect-Redmine 連携アドインを利用し、要求に対応した Redmine のチケットを開いたり、Redmine のチケットの属性を EA の要求に戻したりすることで、参照を行うことが可能です。

3.2. EAの設計を基にした、開発項目などの情報の受け渡し(チケット駆動開発)

チケット駆動開発とは、「作業をタスクに分割し、Redmine などの BTS のチケットに割り当てて管理を行う開発スタイル」と言われています。

チケット駆動開発の考えにのっとり、EA の設計を基に、作業項目一覧を作成・タスクを作成することを EA 上で行います。

そして、EA 上で作成したタスクを Enterprise Architect-Redmine 連携アドインを利用することで、タスクを Redmine のチケットにすることができます。



これで、実際の開発者は Redmine のチケットの開発項目だけを参照して作業を進めることが可能になります。

その後開発が進むと、開発者は Redmine の開発項目（チケット）の状態を変更することになるでしょう。

この開発項目の状態をまとめた状態を、プロジェクトの状態として Redmine でみることもできます。

ですが、再度 Enterprise Architect-Redmine 連携アドインを使って、Redmine のチケッ

トの状態を **Enterprise Architect** の要素の状態として取り込むことで、開発項目それぞれの状態や、開発項目の元となった要求の状態を、**Enterprise Architect** で見ることができ、よりプロジェクトの管理に役立つ情報を一元化して参照できるようになります。

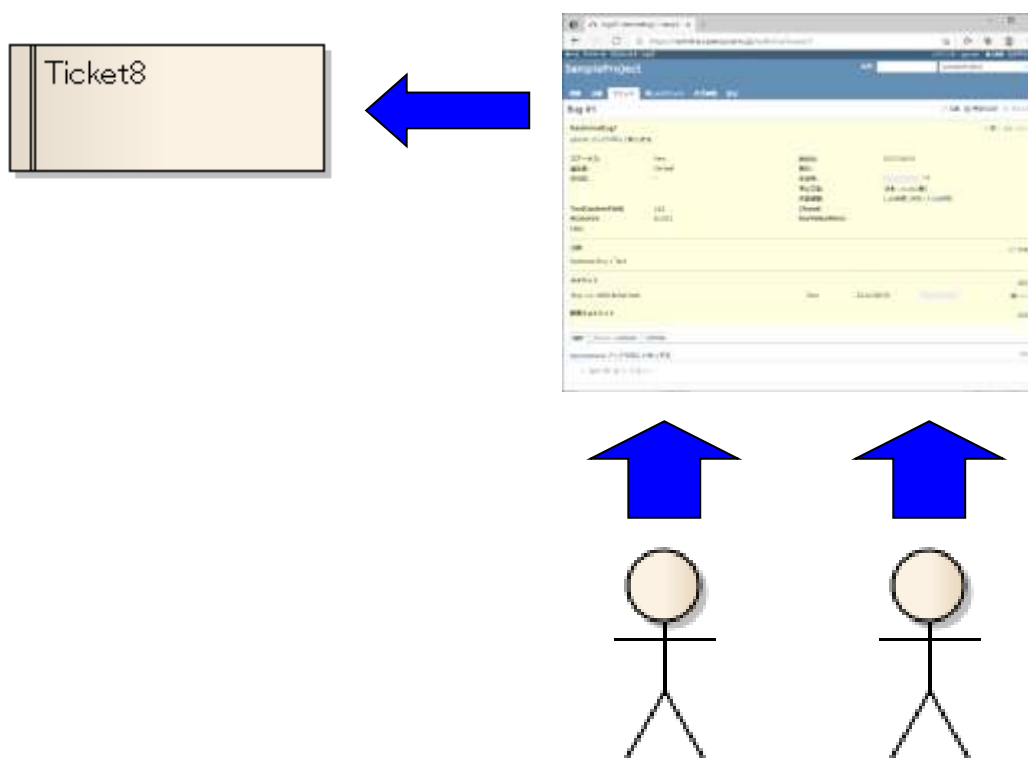
3.3. 広範囲から寄せられたRedmineのチケットを、EAでの設計へ

活用

システム開発中やシステム保守・運用中のバグや要望は、様々な場面や場所で、発生したり・思いついたりするため、Web ベースである Redmine などのチケットとして管理されることが多いです。

このような広範囲から寄せられた Redmine のチケットとして管理されているバグや要望は、システムの改修や新システムの検討の基に使われます。

つまり、EA で設計する際の基情報が、Redmine のチケットということになります。



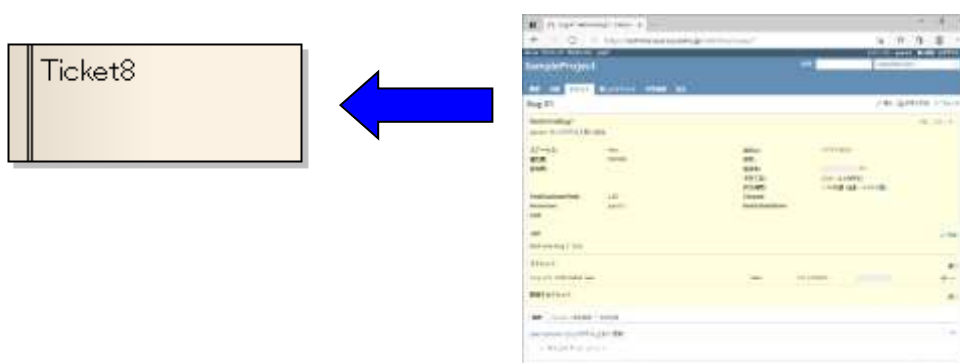
そこで、Enterprise Architect –Redmine 連携アドインを用いて、Redmine に集められたシステムに関する要望（チケット）を、EA に要求要素として作成し、その後は、EA で要求要素を基に、設計などを行っていくと効率的です。

3.4. Redmineのチケット間の関連を、EAの図(ダイアグラム)で表

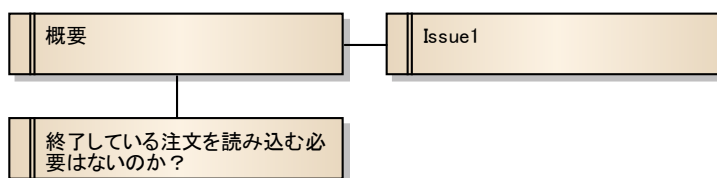
現

[3.3](#) 項にも書きましたように、システム開発中やシステム保守・運用中のバグや要望は、様々な場面や場所で、発生したり・思いついたりするため、Web ベースである Redmine などのチケットとして管理されることが多いです。

そして、1つのチケットに関連するチケットを表現するために、コメントなどに関連するチケットの ID などを書きます。この関連は Redmine 上では逆方向がわからない・全体把握が難しいです。



そこで、Enterprise Architect-Redmine 連携アドインを用いて Redmine のチケットを EA に取り込むことで、アドインが、チケット内のコメントなどの関連する ID を参照し、EA 内で対応した要素間を関連線で結びます。



このようにすることで、チケット間の関連を EA の図として把握することができるようになります。

4. Enterprise Architect-Redmine連携アドインについて

Enterprise Architect-Redmine連携アドイン は UMLモデリングツール EA の要素(要求・変更・ユースケース・テスト項目・問題・ユーザー機能・タスク・テスト・バグ) を Redmine のチケットに関連付け、属性を双方向に変換するアドインです。

Enterprise Architect-Redmine 連携アドインは EA のアドインとして作成されています。(Pro クラウドサーバのアドインではありません。)

4.1. Enterprise Architect-Redmine連携機能

Enterprise Architect-Redmine 連携アドインには、以下の機能があります。

- EA で作成した要素を、Redmine のチケットに変換
- Redmine のチケットを、EA の要素に変換
- EA の要素の属性を、Redmine のチケットの属性に変換
- Redmine のチケットの属性を、EA の要素の属性に変換
- EA 要素の子ダイアグラムを、画像(PNG ファイル)として Redmine のチケットの添付ファイルに変換
- EA 要素の付属ドキュメントを、RTF ファイルとして Redmine のチケットの添付ファイルに変換
- Redmine のチケットを、Enterprise Architect の要素に変換または属性の変換を行うときに、親チケットへのリンクを、Enterprise Architect の接続線・親子関係に変換
- Redmine のチケットを、Enterprise Architect の要素に変換または属性の変換を行うときに、関連チケットへのリンクを、Enterprise Architect の接続線に変換
- 属性の割り当てはカスタマイズ可能

Enterprise Architect-Redmine 連携のデフォルトの属性割り当てルール

EA 要素属性	方向	Redmine チケット属性
概要(ID 付)	⇔	題名
ノート(文字装飾は HTML 形式)	⇔	説明
作者	←	作成者
状態	←	ステータス
タグ付き値 (Redmine 状態)	⇔	ステータス
タグ付き値 (Redmine プロジェクト)	⇔	プロジェクト
タグ付き値 (Redmine トラッカー)	⇔	トラッカー
優先度	←	優先度
タグ付き値 (Redmine 優先度)	⇔	優先度
タグ付き値 (Redmine カテゴリ)	⇔	カテゴリ
タグ付き値 (Redmine 担当者)	←	担当者
子ダイアグラムの画像	→	添付ファイル
付属ドキュメント	→	添付ファイル
親子関係	⇔	チケットの親子関係
関連線	←	チケットの親子関係
関連線	←	チケットの関連

5. Enterprise Architect-Redmine連携アドイン評価版利用設定

1. インストーラダウンロード・インストール

<https://www.sparxsystems.jp/products/other/IntegRedmine.htm#installer>

2. 評価ライセンスキーの取得

EA を起動後、EA のアドイン・拡張リボン > アドインメニューパネル > Redmine 連携 > ライセンス設定 でライセンス設定画面を開いてください。ライセンス設定画面の「評価ライセンスキー取得」ボタンで開く WEB ページから、評価ライセンスキー取得手続きを行ってください。

3. 設定

以下の設定でスパークスシステムズ ジャパンの Redmine を利用し評価可能です。
(毎週月曜日にデータクリア)

Redmine(プロジェクト指定)	https://redmine.sparxsystems.jp/redmine/projects/sampleproject
Redmine(リポジトリ指定)	https://redmine.sparxsystems.jp/redmine/
ユーザ名・パスワード	(評価ライセンスキーと併せてご連絡いたします。)

6. Enterprise Architect-Redmine連携アドイン利用手順（設定）

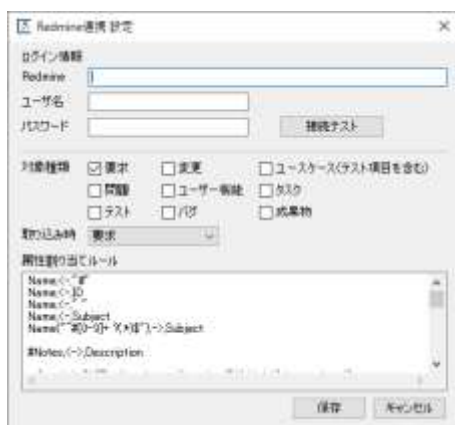
1. Redmine の API 設定

Redmine で、Rest API を利用できるように設定(Redmine の管理/設定/API/REST による Web サービスを有効にするにチェック)

2. EA を起動・プロジェクトを開く

3. アドイン・拡張リボン > アドインメニューパネル > Redmine 連携 > Redmine 連携設定 で以下の項目を設定・保存

- URL
 - https://<ホスト名>(任意パス)/projects/<プロジェクト名>
 - https://<ホスト名>/(任意パス)
- ユーザ名・パスワード



(URL は EA プロジェクト毎に保存/ユーザ名・パスワードは PC のログインユーザ+EA のプロジェクト毎に保存)

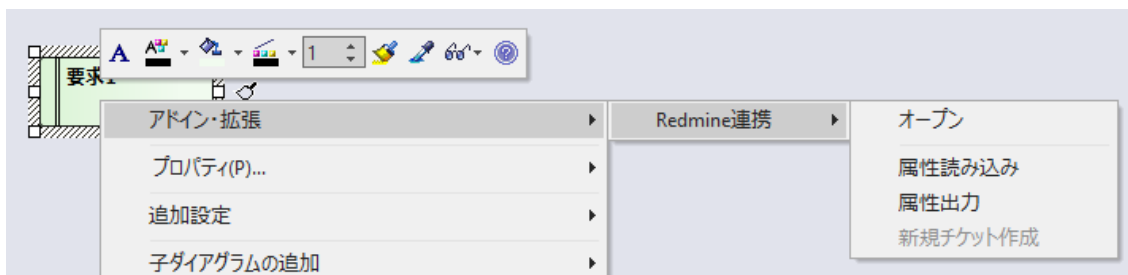
- “対象種類” EA Connector for Redmine のメニューを出す、EA の要素の種類 Requirement だけにチェックが入っている場合、UseCase や Issue の場合、EA Connector for Redmine のメニューを表示しません。
- “取り込み時” Redmine からチケットを取り込んだ時に作成する EA の要素の種類

4. 以下いずれかで希望の動作を選択

- 要求などの要素を選択し、コンテキストメニューのアドイン・拡張 > Redmine 連携 から希望の動作を選択
- EA のダイアグラムを選択し、コンテキストメニューのアドイン・拡張 > Redmine 連携 から希望の動作を選択
- パッケージを選択し、コンテキストメニューのアドイン・拡張 > Redmine 連携 から希望の動作を選択

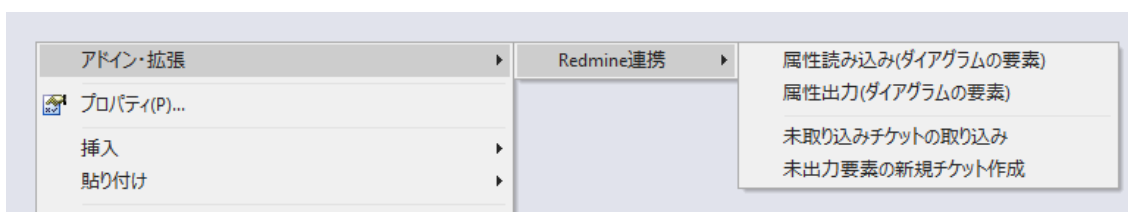
7. Enterprise Architect-Redmine連携アドイン動作

- 要素に対する動作



- オープン
選択した要素に対応するチケットを、ブラウザで開く
- 属性読み込み
選択した要素に、対応するチケットの属性を読み込み
- 属性出力
選択した要素の属性を、対応するチケットに出力
- 新規チケット作成
新規チケットを作成し、選択した要素に対応付け、要素の属性を出力

- ダイアグラムに対する動作



- 属性読み込み (ダイアグラムの要素)
選択したダイアグラム上のチケットと既に対応している要素に、対応するチケットの属性を読み込み
- 属性出力 (ダイアグラムの要素)
選択したダイアグラム上のチケットと既に対応している要素の属性を、対応するチケットに出力
- 未取り込みチケットの取り込み
現在の EA のプロジェクト全体にある、チケットと対応している要素のチケット ID ではない ID を持つチケットに対応した要素を作成し、選択したダイアグラ

ム上に表示

➤ 未出力要素の新規チケット作成

選択したダイアグラム上の要素で、チケットと未対応の要素に対して、新規チケットを作成し、要素に対応付け、要素の属性を出力

● パッケージに対する動作



➤ 属性読み込み (パッケージ配下の要素)

選択したパッケージ配下のチケットと既に対応している要素に、対応するチケットの属性を読み込み

➤ 属性出力 (パッケージ配下の要素)

選択したパッケージ配下のチケットと既に対応している要素の属性を、対応するチケットに出力

➤ 未取り込みチケットの取り込み

現在の EA のプロジェクト全体にある、チケットと対応している要素のチケット ID ではない ID を持つチケットに対応した要素を作成し、選択したパッケージの下に配置

➤ 未出力要素の新規チケット作成

選択したパッケージ配下の要素で、チケットと未対応の要素に対して、新規チケットを作成し、要素に対応付け、要素の属性を出力